攝津國御津岬

いきふ船のかへりこばやらの八十崎同右、たづ千鳥、松崎山城、千とせふる、つるのすむ、氷のわたり、小松崎つのくに、なにはがた、浦にしほみてば、小松が崎に千鳥鳴也、あふみには同名有、鶴をよめり、心見崎あふみなる心みのさとも年経ても小島崎城州お今もかちばさなよし心みぞ人忘るふらんの山こじまのこぶきまの花さき有礒崎越中安禮崎三河れのさきい漕出こに行も舟とめしをらんあ荒藺崎武藏ぬくさかけのかの

ざしまを見つ、や君が山ぢこゆらんぬの崎をのそなれ松かはらぬ色の人ぞつれなみのあ

あらつの崎さちきくにぜんする神なさぶまるなくやいの

もにらんさきたまの崎武州、御説、さての崎伊勢の崎あこし山らいのほゆめかくせるさゆる清見崎駿河ほ原のきい

みえみがさきのみほの浦ゆたに物思ひもなし、千鳥由良崎紀伊海部郡蜑をみて歸り朝こぼらけこんいもぎがたしめわれはゆらのとさきの釣すく

にのの磯ゆらのうらみさきに此日くからしつ、ゆらのくにのさゆらの共いへり、きの月影のさき鹽せかへるけら沖つ志しらかみ

波、萩、上野、鹿、志ば船、木綿崎播州過て神のまいすのうらゆふさごとの松漕三輪崎大和城上郡、是非海邊、降くる雨かみわが崎さのくるしくもず家立ぬいらなこくよりゆとめんよ雪き道みなわのに、さきあら磯も見え水邊也、三保御崎近江立て見渡さぜばなみほや小松さに涙もあらづこ駒とかて、雪

きたづむれてなくこの小松、所の名也、又たぜみかのほかさき共いへり、神社あ三穂崎雲同名が、又出り、に思ひつゝくれどきかれど見ほがさきまなかのうらを又かへりみつ

松原、自つ、じ、月、山ぢ出て、もろた舟、宮崎能州夜更て宮ざきの浦を出るわたりさ舟とむる岩せのわたり月影みつ崎攝州こもみりつ江の崎舟なこみぐを君かし

うち行かの島に舟にまかぢしたしみつきのみぬめの崎同くたづさはひみぬめものときこをみ漕ぎ行ばやまを歸戀

さきよりかなにはがしぬきのたづさはに鳴いもとこしみぬめばやまと

ばるなみに狩くしてなみれみそめの崎秋大萩和はこいの月比にをみそめすさゆめ御輿崎こし相州のさかまくいはのみ

きら心はもたくゆべ三浦崎奥州こつ草あしはつきのみうらさきなるれしでの崎伊勢はゞしでくれにきしゆふな

の君がくずひみずあらば我戀やもの思はゞしでくれにきしゆふな

ふ、御祓、八雲、御説、すまんと可憚、思白崎舟紀州まかしじろさげぬき御幸あるまで大澀谷崎越中のありそにぶ谷のるさなき

とりしで、

いみにはやしきおもほゆに白羽崎遠江、心もしらず、あふ人の繪島崎淡路さえて島がさきに雪ふりにけり三崎廻万、是非

名所、又新撰六帖に、わたの原心すみけり入海のせとの崎みなと河すかすの崎島崎

まふ、つり船のはるかにわたれば心すみきこぎ

和田三崎攝津車ぶれぐわりだきのぬわだのみさきをみかいきの車ふれくるしきたびの日數ならりけ

り

〔古事記下仁德〕大后、爲將豐樂而、於採御綱柏幸行木國之間、天皇婚八田若郎女、於是大后、御綱柏積盈御船還幸之時、所馳使於水取司吉備國兒島之仕丁、是退己國、於難波之大渡、遇所後倉人女之船、乃